「たしかな未来への たしかな架け橋」

（中長期目標設計とバックキャスティング手法によるアクション設計）

この領域は、次世代からの視点で目標を定め、効果的で効率的な環境改善手法を考えることを目的としています。

地域住民と共に創る「サステナブル都市新宿」

＜研究・活動名＞“早稲田発”サステナブル都市「新宿」における地域共創型の温暖化対策推進に関する実証研究

＜代表者／団体＞早稲田大学環境総合研究センター准教授　小野田弘士
新宿区エコ事業者連絡会

都市部における温暖化対策の具体的な方法論をモデル的に提示することと、早大生をはじめとする地域市民のエコマインドを醸成し、率先実践型の人材を社会に輩出する基盤の構築を目標に、新宿区エコ事業者連絡会、早稲田大学の学生が、早稲田大学が保有する省エネ・省CO_2技術を活用して大学構内の自販機改良とその活用を中心に省エネ・省CO_2活動を進め、その手法の研究を行っています。

学生が未来のエコビジネスを開く

＜研究・活動名＞環境とビジネスのバランスを感受した学生を輩出するための研究・活動

＜代表者／団体＞早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授　関谷弘志
早稲田大学学生環境ＮＰＯ環境ロドリゲス em factory

環境配慮型のビジネスモデルの構築や、環境とビジネスのバランスを感受し、実感と考え方を持ち合わせる学生人材を輩出することを目指し、全国学生環境ビジネスコンテスト em factory 2009 の開催準備や若い人をターゲットにした環境感受性の分析を行いました。

右ページ写真　上　：学内省エネプロジェクト資料（小野田プロジェクト）
中下：全国学生環境ビジネスコンテストの様子（関谷プロジェクト）

環境と経済・雇用の問題を同時に解決する

欧米各国は米国のオバマ大統領が打ち出した「グリーン・ニューディール政策」に協調して取り組んでいます。同政策は、自然エネルギーの開発や、環境対策を雇用に結び付け、経済の活性化を図ろうというものです。

ヨーロッパの国々は、自然エネルギーの推進や環境対策の面で、日本よりも進んでいます。

例えば、ドイツには自然エネルギーで発電した電力を電力会社が高く買い取ることを義務付けた「フィード・イン・タリフ（ＦＩＴ）」と呼ばれる制度があります。日本は元来、環境対策やエネルギーに関する技術は非常に進んでいるので、今後はこれらをビジネスに転換できるような政策を推進していくべきだと思います。W-BRIDGE においても、環境経営やエコビジネスの創出についての研究・活動が実施されており、大きな成果を生み出すものと期待しています。

早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授、W-BRIDGE 運営委員　勝田正文

W-BRIDGE へのメッセージ

私は、いわゆる「ゼネコン」に勤務していましたが、建設業はいろいろな意味で、地域や環境と密接な関係があり、社命で地域との交流プロジェクトに携わる中で、地域の様々な活動主体同士の連携が必要だという思いに至りました。今は、新宿区他で、ＮＰＯ法人新宿環境活動ネットを中心に、地域の事業者、学校、行政、区民の皆さんとともに環境活動を作り上げる仕事に従事しています。

私自身早稲田の出身者であり、W-BRIDGE プロジェクトに大きな関心を寄せるとともに、その中のプロジェクトに参画しています。早稲田の「在野精神」が十分発揮されるのは、まさにW-BRIDGE が目的とする学と企業と地域の連携というステージであり、そこから学びとれるものは無限だと考えます。とくにこれからの時代を担う学生の皆さんには、日本いや世界の縮図ともいえるこの新宿区に思い切って飛び込んでほしいと思います。

新宿エコ事業者連絡会会長　落合千秋さん

em factory の全国学生環境ビジネスコンテストに関わらせていただきました。廃棄物業界に従事する私たちは日々の仕事に追われ新しいニーズを探ることが難しい現状があります。その中で em factory に関わり、若い人を中心とするニーズを探っていくことでこれからの本当の環境のニーズを先取りしていきたいと考えています。

現在は一般の方の環境に対する意識は高まってきましたが、いまだ廃棄物業界へはあまり人材が流れてこない現状です。学生をはじめとする大学やＮＰＯの方々には廃棄物業界をはじめ、環境型のビジネスを展開するところへ優秀な人材がいくような流れを作ってほしいと思います。そうした流れができていくことで本当の環境への取り組みができていくのではないかと考えています。そういう意味で、W-BRIDGE プロジェクトには大学、企業、ＮＰＯの連携をうまくとっていくことで、環境型のビジネス分野へ多くの人材が来てくれるような世の中の流れを作ってもらうことを期待しています。

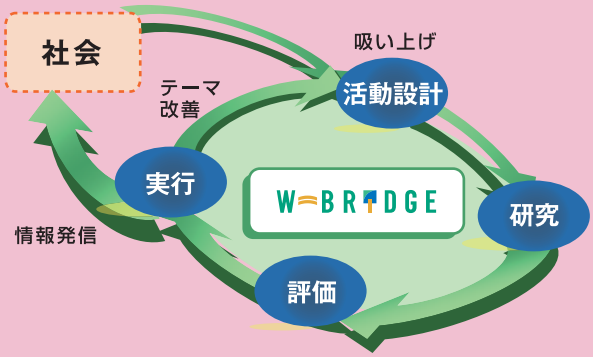
白井グループ株式会社 代表取締役社長　白井 徹さん

ハイレベルの情報を世界へ発信していく

代表代行　堀尾正靱

環境や地球温暖化対策に向けたこれまでの取り組みでは、専門家による環境観測やデータ解析、あるいは先端的な技術開発だけが重視される傾向がありました。これからますます重要になるのは、問題解決のために、適正な技術を選んで、生活や社会の仕組みを総合的に作り直していくような、市民・大学・産業界の連携した研究や実践活動を作り出していくことでしょう。W-BRIDGE プロジェクトはまさにこの部分に重きを置いたものです。これからは、石油漬け社会からの脱却を目指し、W-BRIDGE の総力を挙げて、分野横断の学術・啓発誌「BRIDGE」の発行など、ハイレベルな情報を世界に発信する取り組みを進めたいと考えます。

■ W-BRIDGEの機能



ブリヂストンがW-BRIDGE に期待すること

株式会社ブリヂストン 環境推進本部長　平田　靖

W-BRIDGE では企業単独の環境活動あるいは特定の技術開発等狭い範囲の産学連携では決して得ることの出来ない成果をともに追求していきたいと考えています。産と学の視点だけでなく、生活者や地域の視点を重視した活動の推進に積極的に参画することにより、当社としても様々な要素を吸収し、ゴム農園と生物多様性のバランスといった課題、環境活動を推進するための指針や仕掛け作り等、環境経営活動に活かしていきたいと考えています。

★第３領域、第４領域の新規採択案件

以下の４つの研究・活動が 2009 年 7 月から新たにスタートしています

第３領域：２件

○学生ボランティアと地域活性化による環境保全の連携に関する研究
（早稲田大学・加藤基樹／ WAVOC 公認　まつだい早稲田じょんのびプロジェクト）

○排出量取引が企業の環境経営及び企業価値形成にもたらすインパクトに関する実証的研究（山梨大学大学院・長谷川直哉／日本感性工学会価値創造部会）

なお第４領域では、プロジェクト全体の情報発信機能を担うものとし、学術誌「BRIDGE」の発行準備をはじめ、さまざまな情報発信活動を実施しています。